夏場の大規模地震被災地の復旧対策は

分散備蓄、停電時を含む酷暑対策、民間施設との連携

問 10年前と同じ熊本県下で起こった今回の地震から、酷暑下の避難所の在り方や備蓄品の見直しや状況把握など、新たな課題が見えてきた。町の考えは。

答 酷暑下の避難者の把握や健康管理については、避難者マネジメントシステムの運用で行い、指定避難所以外の避難者については自主防組織や本人家族からの報告、巡回確認で把握できるようにしていく。

今後は、町や各自主防組織の備蓄状況を一元的に把握できるデジタル備蓄台帳の整備の検討をし、情報を定期的に更新する。発災時にどこに何があり、どの地域に何が不足しているかを早期に把握し物資の融通・配送の方に活用できる体制を構築する。

指定避難所となる体育館の空調整備を令和9年度までに整備、停電時の対策も組み合わせて令和10年から使用できるようになる。



藤岡 緑 議員



各自主防においても
定期的な備蓄品確認と更新を

誰一人取り残さない防災を。

紙おむつのサブスクリプション導入の考えは

負担なく管理しているため、導入は考えていない

問 保育現場の業務効率化を図る紙おむつのサブスクリプションの導入は。

答 町立保育所では、保護者が購入したパッケージに名前を記入し、保育所に預けるだけで大きな負担とはなっていない。

保育現場でも、現状の管理に特段の負担感は感じていない。

ICT活用における教職間のスキル格差の是正は

教職員の研修、児童生徒の情報活用能力の育成、誰一人取り残さないICT教育を充実させていく



影岡 俊範 議員

問 四国中央市は、ICT活用をめぐる教職員間のスキル格差の課題に対し「教職員研修プログラム」を展開しているが、本町の対応は。



答 同市は、民間企業等と連携した教職員研修を実施している。

また、各学級における「ICT係」の活動など、教育DXを総合的に推進するなど、第8回日本ICT教育アワードにおいて総務大臣賞を受賞している。

本町においても、教職員間でのスキル格差の是正や、授業のどの場面で、どう活用するのが児童生徒の理解や、主体的な学びにつながるのかという視点に立った実践的な研修を行っている。

デジタル教科書やAI、小中学校への情報教育の導入に伴う、教職員の研修努力に期待したい。